

## 職業決定と自己意識との関係について

— 日中大学生の比較に注目して —

On the relationship between career decision and self consciousness

— Focusing on the comparison of Japanese and Chinese university students —

董 万娜

TOU Man'na

(和歌山大学教育学部第62期生)

菅 千索

SUGA Sensaku

(和歌山大学教育学部心理学教室)

本研究では、自己意識が就職決定・未決定にどのような影響を与えているか、また日本人大学生の就職意識と中国人留学生の就職意識がどうかについて検討した。被験者165名には、成人キャリア成熟度尺度、職業未決定尺度、自己意識尺度、自尊感情尺度、多次元自我同一性尺度、主観的幸福感尺度の6つの質問紙に回答させて、その関係について分析を行った。まず、それぞれの下位尺度を性別・国籍・きょうだいの有無・一人暮らしかどうかごとに  $t$  検定を行ったところ、性別において「失望感のなさ」、「未熟」、「決定」、国籍において「公的自己意識」、「自尊感情」、「自己同一性・連続性」、「前向き」、「達成感」、「自律性」、「未熟」、「猶予」、「模索」、「安直」、きょうだいの有無において「自尊感情」、「心理社会的同一性」、「模索」、一人暮らしかどうかにおいて「自尊感情」、「対自我的同一性」、「心理社会的同一性」、「計画性」、「猶予」で平均値の差が有意であった。職業意識尺度と自己意識尺度との相関係数を求めた結果、職業未決定尺度の「未熟・混乱・猶予・模索・安直」と多次元自我同一性尺度や主観的幸福感尺度の間で負の相関がみられた。一方、職業未決定尺度の「決定」と多次元自我同一性尺度や主観的幸福感尺度の間で正の相関がみられた。また、国籍ごとに求めた相関係数の結果では、日本人大学生の場合、職業未決定尺度と多次元自我同一尺度の間で一般的に相関がみられたが、中国人留学生の場合、それほど強い相関がみられなかった。さらに、日本人大学生においては職業未決定尺度と主観的幸福感尺度の合計の間で相関が見られたが、中国人留学生において、相関が見られなかった。

**キーワード：**人生キャリア成熟、職業未決定、自己意識、自尊感情、自我同一性、主観的幸福感、日中大学生比較

### 問題と目的

最近では景気回復などにより大学生の就職内定率は年々上昇しているものの、安定的な雇用には就いていない者（非正規職員、一時的な仕事に就いた者、進学も就職もしていない者）の合計は大学卒業者の22.9%も占めている。つまり、大学を卒業しても約5人に1人は安定した雇用には就けない状態にある。この中で、一番問題とされるのは進学も就職もしていない者いわゆるニートである。ニートになった理由は「その他」や「病気・けが」などを除けば、「学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている」「知識・能力に自信がない」などの理由が挙げられている。また、自室からほとんど出なかったり、買い物や趣味の時しか外出しなかったりする「ひきこもり」は、15～39歳のうち69万6000人いると推測されている。ひきこもりになった理由は、「その他」や「病気・けが」を除けば、「職場になじめなかった」、「就職活動がうまくいかなかった」などが挙げられている（内閣府, 2013）。フリーターやニート

やひきこもり増加の原因として、厳しい就職環境だけではなく、学生の資質の低下や就職意識の変化といった学生側の要因も挙げられている。特に、青年後期における職業決定の変化は注目すべきである。

職業決定は青年後期の最も重要な発達課題である。Erikson (1980) によれば、乳幼児期以来、漸次形成されてきた多数の同一化群が、青年期において社会的役割の獲得という形で統合され、アイデンティティの確立に至るとされる。その社会的役割の獲得において中心位置を占めるのが職業決定であり、アイデンティティの拡散、危機は職業決定が不可能という形で最もよくあらわれるという（下山, 1986）。これはアイデンティティの『同一性』とよばれ「自分であること」「自己の存在証明」「真の自分」「主体性」などの意味を持つという。その第1は自己の単一性、連続性、不変性、独自性の感覚を、また第2は一定の対象（人格）との間、あるいは一定の集団（およびそのメンバー）の間で承認された役割の達成、共通の価値観の共有を介して得られる連帯感、安定感に基礎づけられた自己価

値 (self-esteem) および肯定的な自己像を意味している。つまり、各個人は、出生以来、父母、家族をはじめとする対人関係の中で社会化されながら、自我発達を遂げてゆくが、この過程でそれぞれの家族同一性 (family identity)、各集団同一性 (group identity) を共有する。「日本人としての自分」(国民的同一性 (national identity))、「〇〇の息子(娘)としての自分」「男性(女性)としての自分」(性的同一性 (sexual identity))、「〇〇大の学生としての自分」「医者としての自分」(職業的同一性 (professional identity)) という具合にさまざまな社会的自己とその同一性(複数)が形成されてゆく。そして自我同一性 (ego identity) とは、これらの各同一性を統合する人格的な同一性 (personal identity) をいう。

これらの研究によれば、国や家族または職業が違っていると、異なったアイデンティティが形成されるといえる。つまり、日本人大学生と中国人留学生のアイデンティティが異なると予測できる。そこで、アイデンティティの違いによって、職業の決定に与える影響を検討することを本研究の目的の一つとする。

また、職業の決定と関連するのはキャリアの成熟である。Super (1984) によれば、「キャリア成熟とは、キャリア発達課題へ取り組もうとする個人の態度的・認知的レディネスである」と定義される。また、King (1989) は、「キャリア成熟とは、知見の広い、年齢にふさわしいキャリア決定するための個人のレディネスである」と定義している。要するに、キャリア成熟とは、「キャリアの選択・決定やその後の適応への個人のレディネスないし取り組み姿勢である」といえる (坂柳, 1991)。

一方で、卒業前後でのキャリア選択によって、主観的幸福感の高さが変わることが明らかになっている。松浦 (2006) によれば、大学卒業後に就職した群についてのみ主観的幸福感が低下し、進学した群やそのほかの群には、卒業前後での主観的幸福感得点に有意な差が認められなかった。つまり、環境の変化の大きさが主観的幸福感を低下させている可能性が示唆される。そこで、本研究では、卒業前後でのキャリア選択による主観的幸福感の変化を検証するのではなく、卒業する前に持っている主観的幸福感は就職決定に影響を及ぼすかどうかについて検証する。

Subjective well-beingは主観的幸福感あるいは主観的健康観と訳されるが、感情状態を含み、家族・仕事など特定の領域に対する満足や人生全般に対する満足を含む広範な概念であり (Diener *et al.*, 1999)、ある程度の時間的安定性と状況に対する一貫性を持つと考えられる。主観的幸福感研究は、QOL (quality of life) 研究の発展の中で生まれてきたもので、QOLの主観的あるいは心理側面といえる (石井, 1997)。また、主観的幸福感の構造として、認知的側面と感情的側面の2つの領域があることは多くの研究者の一致した見解になっている (Diener *et al.*, 1999; Larson, 1978)。認知的側面は自己の生活に対する満足度を指

し、感情的側面は楽しい・悲しいといったポジティブ感情とネガティブ感情の両面という (伊藤ら, 2003)。

以上のことから本研究では、自己意識、自尊感情、多次元自我同一性、主観的幸福感を含む自己意識と就職決定の関連を検討することが主な目的である。さらに、中国人留学生と日本人大学生は就職に対する意識の差があるかどうかを検証し、もし差があれば、その差は何による影響かを探るものとする。

## 方法

**被験者：**大学生165名 (男子89名、女子76名) で、国籍別では日本人学生120名 (男子70名、女子50名)、中国人学生45名 (男子19名、女子26名)。また調査に先だって回答させた結果からは、「きょうだい=いる」125名、「同=いない」40名、「一人暮らし=はい」65名、「同=いいえ」100名であった。

**質問紙：**以下について回答させた。

①成人キャリア成熟尺度：坂柳 (1999) が作成したものを使用した。この尺度は成人が自分のこれからの人生や生き方、職業生活、余暇生活について、どの程度成熟した考えを持っているかを測定するものである。本尺度で特別に「成人」が冠されているのは、もともと「キャリア成熟」概念が幼年期から青年期までの職業的発達を説明する「職業成熟」概念を「青年期から成人期へ」拡張し、さらに「職業からキャリアへ」拡張したものだからである。こうした拡張の背景には、職業的な発達は青年期以降も継続するものであり、職業生活は余暇生活などを含めた人生そのものや生き方全体と切り離して考えられないとする考え方がある。そのため、本尺度では「人生キャリア成熟」「職業キャリア成熟」「余暇キャリア成熟」の3つのキャリア成熟を測定できるが、本研究では、「人生キャリア成熟」のみを使用した。「人生キャリア成熟」には、「人生キャリア関心性」9項目、「人生キャリア自律性」9項目、「人生キャリア計画性」9項目の計27項目ある。回答は成人キャリア成熟について、「よくあてはまる (5点)」「ややあてはまる (4点)」「どちらともいえない (3点)」「あまりあてはまらない (2点)」「全くあてはまらない (1点)」の5件法で求めた。

②職業未決定尺度：下山 (1986) が作成したものを使用した。この尺度は職業未決定の状態を測定する尺度である。職業決定は青年後期の重要な発達課題である。そして、職業決定をうまく行えない場合には、その後の社会的・経済的なアイデンティティが危機にさらされる。そのため、そうした危機を適切に援助することが必要になる。ところが、職業未決定は「積極的な職業探索状態から消極的なアパシー状態まで」多様な状態を示す。そこで、実際に援助を行う際には、どのような状態の職業未決定であるのかの見極めが重要となる。本尺度ではこうした多様な職業未決定の状態を測定する。本尺度には、第1因子の「職業意識が未熟なため、将来の見通しがなく、職業選択に取り組めない

状態である（未熟）」が6項目、第2因子の「職業に直面して不安になり、情緒的に混乱している状態である（混乱）」が8項目、第3因子の「職業決定を猶予して当面のところは職業について考えたくないという状態である（猶予）」が7項目、第4因子の「職業決定に向かって積極的に模索している状態である（模索）」が6項目、第5因子の「自らの関心や興味を職業選択に結び付けていこうとする努力しない安易な職業決定状態である（安直）」が7項目、第6因子の「職業決定に向かって着実に進んでいる状態である（決定）」が4項目からなり合計で38項目である。回答は職業の決定について、「あてはまる（3点）」「どちらともいえない（2点）」「あてはまらない（1点）」の3件法で求めた。

③ 自意識尺度：菅原（1984）が Fenigstein, *et al.*（1975）の自意識尺度の項目を参考として、独自に作成・編集したものを使用した。この尺度は自分自身にどの程度注意を向けやすいかの個人差（自意識特性）を測定するものである。Fenigstein, *et al.*（1975）によると、自己に向けられる意識には、私的自意識と公的自意識の2つがある。私的自意識とは、自分の内面・気分など、外からは見えない自己の側面に注意を向ける程度に関する個人差を示すものである。公的自意識は、自分の外見や他者に対する行動など、外から見える自己の側面に注意を向ける程度に関する個人差を示すものである。そのため、この尺度は「公的自意識」11項目、「私的自意識」10項目の計21項目で構成されている。回答は自己に向けられる意識について、「非常にあてはまる（7点）」「あてはまる（6点）」「ややあてはまる（5点）」「どちらともいえない（4点）」「ややあてはまらない（3点）」「あてはまらない（2点）」「全くあてはまらない（1点）」の7件法で求めた。

④ 自尊感情尺度：Rosenberg（1965）により作成されたものを山本・松井・山成（1982）が和訳したものを使用した。Rosenberg（1965）は、他者との比較により生じる優越感や劣等感ではなく、自身で自己への尊重や価値を評価する程度のことを自尊感情と考えている。そのため、この尺度は自身で自己への尊重や価値を評価する程度を測定するものであり、計10項目で構成されている。回答は自己に対する尊重や評価について、「あてはまる（5点）」「ややあてはまる（4点）」「どちらともいえない（3点）」「ややあてはまらない（2点）」「あてはまらない（1点）」の5件法で求めた。

⑤ 多次元自我同一性尺度：谷（1997a；1997b；1998；2001）が作成したものを使用した。この尺度は多次元的に自我同一性の感覚を測定するものであり、「自己斉一性・連続性」5項目、「対自的同一性」5項目、「対他者的同一性」5項目、「心理社会的同一性」5項目の計20項目で構成されている。回答は自我同一性の感覚について、「非常にあてはまる（7点）」「かなりあてはまる（6点）」「どちらかというにあてはまる（5点）」「どちらともいえない（4点）」「どちらかというにあてはまらない（3点）」「ほとんどあてはまらない（2点）」「全くあてはまらない（1点）」の7件法で求めた。

⑥ 主観的幸福感尺度：伊藤ら（2003）が作成したものを使用した。この尺度は心理的健康を表す指標としての主観的幸福感を測定するものであり、「人生に対する前向きな気持ち」3項目、「自信」3項目、「達成感」3項目「人生に対する失望感のなさ」3項目の計12項目で構成されている。回答は主観的幸福感について、「あなたが毎日の生活の中で、どのように感じているかをうかがいます。次にかかげる質問を読んで、あなたの気持ちに最も近い回答1つ選び、○で囲んで下さい」と教示した。各項目について1～4までの4段階で評定を求めた。

**手続き**：最初に、フェイスシートで学部、国籍、性別、年齢、学年、きょうだい：いる・いない、一人暮らし：はい・いいえを記入してから（無記名方式）、6つの尺度すべてに評定させた。『記入の際はあまり深く考えず、ありのまま答える』という教示を与えた。所要時間は15分程度であった。

## 結果

**平均値の群間差検定**：得られたデータの全体および「性別」（男・女）、「国籍」（日本・中国）、「きょうだい」（いる・いない）、「一人暮らし」（はい・いいえ）の平均値と標準偏差をTable 1aと1bに示す。

各群間の平均値の差の有意性を検定するために、それぞれ2群からなる「性別」、「国籍」、「きょうだい」、「一人暮らし」について *t* 検定を行った。その結果、平均値の群間差が有意 ( $p < 0.05$ ) または有意な傾向 ( $p < 0.1$ ) にあたったものをTable 2に示す。

「性別」については、『職業未決定〈未熟〉、〈決定〉』と『主観的幸福感〈失望感のなさ〉』で有意な差が、また『自我同一性〈対他者的〉』で有意な差がある傾向が認められた。そこでは〈未熟〉で男よりも女の方が高く、〈決定〉で女よりも男の方が高く、〈失望感のなさ〉で男よりも女の方が高く、〈対他者的〉で男よりも女の方が高かった。

「国籍」については、『成人キャリア成熟〈自律性〉』、『職業未決定〈成熟〉、〈猶予〉、〈模索〉、〈安直〉』、『自意識〈公的自意識〉』、『自尊感情』、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉』、『主観的幸福感〈前向き〉、〈達成感〉』で有意な差が認められた。そこでは〈自律性〉で中国よりも日本の方が高く、『職業未決定〈未熟〉、〈猶予〉、〈模索〉、〈安直〉』で日本よりも中国の方が高く、『自尊感情』で日本よりも中国の方が高く、〈前向き〉、〈達成感〉、〈自己斉一性・連続性〉で中国よりも日本の方が高かった。

「きょうだい」については、『職業未決定〈模索〉』、『自尊感情』、『自我同一性〈心理社会的〉』で有意な差が認められた。そこでは「きょうだい：いる」よりも「同：いない」の方がすべて高かった。

「一人暮らし」については、『成人キャリア成熟〈計画性〉』、『職業未決定〈猶予〉』、『自尊感情』、『自我同



一性〈対自的〉、〈心理社会的〉』で有意な差が、また『主観的幸福感〈自信〉』で有意な差がある傾向が認められた。そこでは「一人暮らし：いいえ」よりも「同：はい」の方がすべて高かった。

**全体および群別の相関係数：**[全体]職業決定尺度(『成人キャリア成熟』、『職業未決定』)と自己意識尺度(『自意識』、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』)

との全体の相関係数(有意であったものに限る。以下も同様)をTable 3に示す。

『成人キャリア成熟〈関心性〉』においては、自己意識尺度のすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた。『成人キャリア成熟〈自律性〉、〈計画性〉』においては、『自意識〈私的自意識〉』と他のすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見

Table 1 a 全体および被験者群ごとの平均値(上段)と標準偏差(下段斜体)

測定尺度		全体	性別		国籍		きょうだい		一人暮らし	
			男	女	日本	中国	いる	いない	はい	いいえ
被験者数 (n)		165	89	76	120	45	125	40	65	100
人生 キャリア 成熟	〈関心性〉	33.48	33.22	33.79	33.77	32.73	33.24	34.25	33.75	33.31
		5.93	5.61	6.32	6.15	5.32	5.99	5.75	6.07	5.87
	〈自律性〉	33.85	34.16	33.50	34.46	32.24	33.94	33.60	34.12	33.68
		5.35	4.72	6.02	5.65	4.11	5.25	5.72	4.82	5.69
	〈計画性〉	31.37	31.25	31.51	31.02	32.31	31.00	32.53	32.82	30.43
		6.43	5.73	7.21	6.66	5.76	6.24	6.94	6.21	6.43
職業 未決定	〈未 熟〉	25.96	24.93	27.17	25.39	27.49	26.14	25.43	25.62	26.19
		6.89	6.15	7.53	7.31	5.41	7.04	6.45	6.92	6.90
	〈混 乱〉	15.57	15.21	15.99	15.37	16.11	15.77	14.95	15.32	15.73
		3.95	3.58	4.33	4.22	3.08	4.10	3.42	3.83	4.04
	〈猶 子〉	11.23	11.04	11.45	10.30	13.71	11.02	11.88	12.06	10.69
		3.41	3.29	3.55	3.14	2.83	3.48	3.11	3.47	3.27
	〈模 索〉	12.47	12.15	12.86	11.90	14.00	12.20	13.33	12.98	12.14
		3.22	3.14	3.30	3.36	2.22	3.32	2.76	3.25	3.18
	〈安 直〉	11.93	11.93	11.92	10.98	14.47	11.73	12.55	12.32	11.67
		3.19	3.20	3.20	2.80	2.79	3.15	3.29	3.33	3.09
	〈決 定〉	9.14	9.57	8.63	9.06	9.36	9.15	9.10	9.42	8.96
		2.18	1.88	2.41	2.35	1.67	2.22	2.10	2.08	2.24

Table 1 b 全体および被験者群ごとの平均値(上段)と標準偏差(下段斜体)

	測定尺度	全体	性別		国籍		きょうだい		一人暮らし	
			男	女	日本	中国	いる	いない	はい	いいえ
自意識	〈公的自意識〉	57.15	57.37	56.88	58.42	53.76	57.74	55.30	56.31	57.69
		9.80	9.87	9.77	10.21	7.71	9.98	9.07	9.10	10.23
	〈私的自意識〉	48.90	49.13	48.63	49.12	48.33	48.94	48.80	49.00	48.84
		8.17	8.44	7.89	8.91	5.82	8.54	6.98	7.78	8.45
自我同一性	自尊心	32.30	31.87	32.80	31.46	34.53	31.62	34.40	34.48	30.88
		7.23	7.08	7.42	7.70	5.25	7.53	5.80	6.52	7.35
	〈自己斉一性・連続性〉	22.42	21.75	23.21	23.18	20.40	22.37	22.60	22.03	22.68
		6.93	6.94	6.88	7.02	6.33	6.94	7.00	6.56	7.19
	〈対自的〉	22.33	22.89	21.68	22.14	22.84	21.95	23.53	23.72	21.43
		6.27	5.82	6.74	6.81	4.59	6.50	5.41	5.44	6.63
	〈対他 的〉	19.82	19.12	20.63	19.60	20.40	19.70	20.18	20.05	19.67
		5.55	5.39	5.65	5.74	5.00	5.73	4.97	4.97	5.91
	〈心理社会的〉	22.85	23.10	22.57	22.66	23.38	22.37	24.38	23.94	22.15
		5.51	5.23	5.84	5.79	4.70	5.64	4.85	5.16	5.64
	〈同一性合計〉	87.43	86.87	88.09	87.58	87.02	86.39	90.68	89.74	85.93
		19.94	18.86	21.23	21.26	16.09	20.67	17.30	17.66	21.24
主観的幸福感	〈前向き〉	9.24	9.30	9.16	9.43	8.71	9.33	8.95	9.20	9.26
		1.55	1.55	1.57	1.53	1.50	1.38	1.99	1.43	1.64
	〈自信〉	8.63	8.65	8.61	8.63	8.62	8.62	8.68	8.91	8.45
		1.67	1.58	1.77	1.70	1.60	1.60	1.89	1.68	1.64
	〈達成感〉	8.69	8.66	8.72	8.91	8.11	8.72	8.60	8.75	8.65
		1.42	1.29	1.56	1.37	1.39	1.36	1.60	1.40	1.43
	〈失望感のなさ〉	7.86	7.57	8.20	7.77	8.11	7.78	8.10	8.09	7.71
		1.77	1.82	1.66	1.90	1.35	1.75	1.82	1.54	1.89
	〈幸福感合計〉	34.42	34.19	34.68	34.74	33.56	34.45	34.33	34.95	34.07
		4.94	4.61	5.31	5.22	4.01	4.68	5.73	4.35	5.28

Table 2 「性別」「国籍」「きょうだい」「一人暮らし」についての  $t$  検定

群	尺度	$F$	$p$	$t$	$df$	$p$	比較
性別	職業未決定 <未熟>	3.871	0.051	-2.102	163	0.037*	男<女
	職業未決定 <決定>	5.539	0.020*	2.765	141.09	0.006**	男>女
	自我同一性 <対他的>	0.255	0.614	-1.751	163	0.082†	男≤女
	主観的幸福感 <失望感のなさ>	1.394	0.239	-2.292	163	0.023*	男<女
国籍	人生キャリア成熟 <自律性>	5.498	0.020*	2.766	108.31	0.007**	日本>中国
	職業未決定 <未熟>	7.323	0.008**	-2.004	106.40	0.048*	日本<中国
	職業未決定 <猶予>	1.188	0.277	-6.385	163	0.000***	日本<中国
	職業未決定 <模索>	16.491	0.000***	-4.661	119.58	0.000***	日本<中国
	職業未決定 <安直>	0.001	0.974	-7.150	163	0.000***	日本<中国
	自意識 <公的自意識>	4.274	0.040*	3.151	104.33	0.002**	日本>中国
	自尊感情	6.718	0.010*	-2.923	115.70	0.004**	日本<中国
	自我同一性 <自己斉一性・連続性>	1.346	0.248	2.327	163	0.021*	日本>中国
	主観的幸福感 <前向き>	0.049	0.825	2.711	163	0.007**	日本>中国
	主観的幸福感 <達成感>	0.275	0.601	3.315	163	0.001**	日本>中国
きょうだい	職業未決定 <模索>	4.224	0.041*	-2.132	78.22	0.036*	いる<いない
	自尊感情	2.519	0.114	-2.136	163	0.034*	いる<いない
	自我同一性 <心理社会的>	1.109	0.294	-2.024	163	0.045*	いる<いない
一人暮らし	人生キャリア成熟 <計画性>	0.000	0.986	2.360	163	0.019*	はい>いいえ
	職業未決定 <猶予>	0.703	0.403	2.570	163	0.011*	はい>いいえ
	自尊感情	0.589	0.444	3.210	163	0.002**	はい>いいえ
	自我同一性 <対自的>	1.756	0.187	2.325	163	0.021*	はい>いいえ
	自我同一性 <心理社会的>	0.455	0.501	2.058	163	0.041*	はい>いいえ
	主観的幸福感 <自信>	0.078	0.780	1.736	163	0.084†	はい≥いいえ

\*\*\*:  $p < 0.001$ , \*\*:  $p < 0.01$ , \*:  $p < 0.05$ , †:  $p < 0.1$ Table 3 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数 (全体:  $n = 165$ )

測定尺度	自意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的自意識	私的自意識		自己斉一性・連続性	対自的同一性	対他的同一性	心理社会的同一性	同一性合計	前向き	自信	達成感	失望感のなさ	幸福感合計
人生 <関心性>	0.255**	0.501**	0.369**	0.197*	0.446**	0.261**	0.467**	0.411**	0.322**	0.497**	0.415**	0.211**	0.463**
キャリア <自律性>		0.361**	0.506**	0.515**	0.612**	0.386**	0.602**	0.646**	0.488**	0.648**	0.445**	0.460**	0.665**
成熟 <計画性>		0.316**	0.486**	0.355**	0.732**	0.388**	0.633**	0.637**	0.400**	0.656**	0.447**	0.407**	0.621**
職業未決定	<未熟>		-0.468**	-0.502**	-0.573**	-0.318**	-0.522**	-0.587**	-0.350**	-0.503**	-0.321**	-0.458**	-0.536**
	<混乱>	0.193*	-0.457**	-0.493**	-0.505**	-0.335**	-0.485**	-0.558**	-0.306**	-0.447**	-0.278**	-0.477**	-0.498**
	<猶予>	-0.155*		-0.324**	-0.339**		-0.270**	-0.325**	-0.225**	-0.296**	-0.282**	-0.195*	-0.321**
	<模索>			-0.180*	-0.211**	-0.164*	-0.186*	-0.226**					-0.161*
	<安直>			-0.312**	-0.360**		-0.294**	-0.329**	-0.276**	-0.254**	-0.246**	-0.230**	-0.325**
	<決定>		0.403**	0.299**	0.586**	0.297**	0.525**	0.516**	0.303**	0.462**	0.229**	0.394**	0.458**

\*\* :  $p < 0.01$ , \* :  $p < 0.05$ 

られた。

『職業未決定 <未熟>』においては、『自意識』を除く他のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定 <混乱>』においては、『自意識 <公的自意識>』、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべて下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定 <猶予>』においては、『自意識 <公的自意識>』、『自我同一性尺度 <対他的>』を除く他のすべての下位尺度および合計尺度、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定 <模索>』においては、『自我同一性』のすべての下位尺度と合計尺度、『主観的幸福感 <幸福感合計>』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定 <安直>』においては、『自我同一性 <対他的>』を除く他のすべての下位尺度と合計尺度、『主観的幸福感』のすべての下位尺度

および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定 <決定>』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた。

【男】職業決定尺度と自己意識尺度との男の相関係数を Table 4 に示す。

『成人キャリア成熟』のすべての下位尺度については、自己意識尺度のほぼすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた (<関心性> と <自己斉一性・連続性>、<対他的> ; <自律性>、<計画性> と <公的自意識> を除く)。

『職業未決定 <未熟>』においては、『自意識 <私的自意識>』で正の有意な相関、また『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定 <混乱>』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主

Table 4 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数（男： $n=89$ ）

測定尺度	自己意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的 自己意識	私的 自己意識		自己斉一性・連続性	対自的 同一性	対他的 同一性	心理社会的 同一性	同一性 合計	前向き	自信	達成感	失望感 のなさ	幸福感 合計
人生 <関心性>	0.376**	0.447**	0.443**		0.334**		0.419**	0.300**	0.289**	0.461**	0.377**	0.241*	0.455**
キャリア <自律性>		0.294**	0.470**	0.520**	0.515**	0.366**	0.533**	0.603**	0.415**	0.537**	0.258*	0.441**	0.569**
成熟 <計画性>		0.209*	0.400**	0.281**	0.694**	0.273**	0.586**	0.558**	0.300**	0.559**	0.351**	0.342**	0.525**
職業 未決定	<未熟>		-0.426**	-0.529**	-0.535**	-0.300**	-0.446**	-0.569**	-0.277**	-0.473**	-0.234*	-0.415**	-0.484**
	<混乱>		-0.432**	-0.527**	-0.479**	-0.322**	-0.429**	-0.553**	-0.271*	-0.463**	-0.224*	-0.438**	-0.484**
	<猶予>			-0.267*	-0.342**			-0.241*		-0.217*			
	<模索>	-0.225*											
	<安直>			-0.282**	-0.280**			-0.216*					
<決定>			0.353**		0.501**	0.269*	0.439**	0.420**		0.388**		0.408**	0.423**

\*\* :  $p < 0.01$ , \* :  $p < 0.05$ Table 5 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数（女： $n=76$ ）

測定尺度	自己意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的 自己意識	私的 自己意識		自己斉一性・連続性	対自的 同一性	対他的 同一性	心理社会的 同一性	同一性 合計	前向き	自信	達成感	失望感 のなさ	幸福感 合計
人生 <関心性>		0.570**	0.293*	0.265*	0.561**	0.395**	0.519**	0.512**	0.362**	0.534**	0.446**		0.468**
キャリア <自律性>		0.435**	0.554**	0.539**	0.687**	0.431**	0.660**	0.689**	0.558**	0.742**	0.592**	0.533**	0.752**
成熟 <計画性>		0.432**	0.566**	0.429**	0.773**	0.496**	0.677**	0.703**	0.498**	0.740**	0.521**	0.490**	0.699**
職業 未決定	<未熟>		-0.543**	-0.535**	-0.594**	-0.394**	-0.587**	-0.628**	-0.416**	-0.537**	-0.404**	-0.603**	-0.608**
	<混乱>		-0.500**	-0.496**	-0.519**	-0.385**	-0.532**	-0.574**	-0.337**	-0.436**	-0.327**	-0.586**	-0.524**
	<猶予>	-0.239*	-0.255*	-0.405**	-0.329**	-0.267*	-0.378**	-0.411**	-0.399**	-0.372**	-0.427**	-0.415**	-0.496**
	<模索>			-0.255*	-0.234*	-0.324**	-0.244*	-0.311**	-0.251*			-0.285*	-0.293*
	<安直>	-0.347**	-0.237*	-0.350**	-0.448**	-0.238*	-0.473**	-0.449**	-0.458**	-0.378**	-0.420**	-0.432**	-0.519**
<決定>	-0.251*		0.498**	0.478**	0.647**	0.400**	0.602**	0.632**	0.352**	0.540**	0.295**	0.504**	0.527**

\*\* :  $p < 0.01$ , \* :  $p < 0.05$ 

観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。

『職業未決定<猶予>』においては、『自我同一性<自己斉一性・連続性>、<対自的>、<同一性合計>』、『主観的幸福感<自信>』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定<模索>』においては、『自己意識<公的自己意識>』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定<安直>』においては、『自我同一性<自己斉一性・連続性>、<対自的>、<同一性合計>』で負の有意な相関が見られた。

『職業未決定<決定>』においては、『自尊感情』、『自我同一性<自己斉一性・連続性>』を除く他のすべての下位尺度および合計尺度、『主観的幸福感尺度<自信>、<失望感のなさ>、<幸福感合計>』で正の有意な相関が見られた。

【女】職業決定尺度と自己意識尺度との女の相関係数をTable 5に示す。

『成人キャリア成熟』のすべての下位尺度については、『自己意識<公的自己意識>』を除く他のほぼすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた（<関心性>と<失望感のなさ>を除く）。

『職業未決定<未熟>、<混乱>』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。

『職業未決定<猶予>』においては、『自己意識<私的自己意識>』、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定<模索>』においては、『自我

同一性』のすべての下位尺度および合計尺度、『主観的幸福感<前向き>、<失望感のなさ>、<幸福感合計>』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定<安直>』においては、『自己意識<公的自己意識>』を除く他のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定<決定>』においては、『自己意識<公的自己意識>』で負の有意な相関、また『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度と合計尺度で正の有意な相関が見られた。

【日本】職業決定尺度と自己意識尺度との日本人大学生の相関係数をTable 6に示す。

『成人キャリア成熟』のすべての下位尺度においては、自己意識尺度のほぼすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた（<関心性>と<自己斉一性・連続性>；<自律性>、<計画性>と<公的自己意識>を除く）。『職業未決定<未熟>、<混乱>』においては、『自己意識<公的自己意識>』で正の有意な相関、また『職業未決定<未熟>、<混乱>、<猶予>』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定<模索>』においては、『自我同一性<自己斉一性・連続性>』を除く他のすべての下位尺度および合計尺度、『主観的幸福感<自信>、<幸福感合計>』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定<安直>』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定<決定>』においては、

『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた。

【中国】職業決定尺度と自己意識尺度との中国人留学生の相関係数をTable 7に示す。

『成人キャリア成熟〈関心性〉』においては、『自意識〈公的自意識〉、〈私的自意識〉』『自我同一性〈対自的〉、〈対他的〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』『主観的幸福感〈自信〉』で正の有意な相関が見られた。『成人キャリア成熟〈自律性〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈対自的〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』『主観的幸福感〈自信〉、〈幸福感合計〉』で正の有意な相関がみられた。『成人キャリア成熟〈計画性〉』においては、『自意識〈私的自意識〉』『自尊感情』、『自我同一性』のすべての下位尺度と合計尺度、『主観的幸福感〈自信〉、〈達成感〉、〈幸福感合計〉』で正の有意な相関が見られた。

『職業未決定〈未熟〉』においては、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』『主観的幸福感〈自信〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈混乱〉』においては、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈猶予〉』においては、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈模索〉』においては、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈安直〉』においては、『自我同一性〈対自的〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈決

定〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性〈対自的〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』『主観的幸福感〈前向き〉、〈幸福感合計〉』で正の有意な相関が見られた。

【きょうだい=いる】職業決定尺度と自己意識尺度との「きょうだい=いる」の相関係数をTable 8に示す。

『成人キャリア成熟』のすべての下位尺度においては、自己意識尺度のほぼすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた(〈自律性〉、〈計画性〉と〈公的自意識〉を除く)。『職業未決定〈未熟〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈混乱〉』においては、『自意識〈公的自意識〉』で正の有意な相関、また『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。

『職業未決定〈猶予〉』においては、『自意識〈公的自意識〉』で正の有意な相関、また『自我同一性』、『主観的幸福感』のほぼすべての下位尺度合計尺度で負の有意な相関が見られた(〈猶予〉と〈対他的〉、〈失望感のなさ〉を除く)。『職業未決定〈模索〉、〈安直〉』においては、『自我同一性』、『主観的幸福感』のほぼすべての下位尺度と合計尺度で負の有意な相関が見られた(〈模索〉と〈前向き〉、〈達成感〉；〈安直〉と〈対他的〉を除く)。『職業未決定〈決定〉』において、『自意識』を除く他のすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた。

【きょうだい=いない】職業決定尺度と自己意識尺度

Table 6 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数（日本： $n=120$ ）

測定尺度	自意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的自意識	私的自意識		自己斉一性・連続性	対自的同一性	対他的同一性	心理社会的同一性	同一性合計	前向き	自信	達成感	失望感のなさ	幸福感合計
人生〈関心性〉	0.228*	0.543**	0.454**		0.462**	0.233*	0.469**	0.391**	0.369**	0.532**	0.464**	0.313**	0.517**
キャリア〈自律性〉		0.378**	0.586**	0.498**	0.677**	0.436**	0.676**	0.683**	0.547**	0.679**	0.468**	0.556**	0.706**
成熟〈計画性〉		0.323**	0.517**	0.371**	0.766**	0.391**	0.654**	0.651**	0.481**	0.703**	0.528**	0.507**	0.693**
職業未決定	〈未熟〉	0.186*	-0.559**	-0.511**	-0.641**	-0.391**	-0.574**	-0.636**	-0.418**	-0.562**	-0.356**	-0.544**	-0.596**
	〈混乱〉	0.249**	-0.532**	-0.522**	-0.584**	-0.430**	-0.557**	-0.627**	-0.379**	-0.501**	-0.312**	-0.555**	-0.558**
	〈猶予〉		-0.328**	-0.262**	-0.435**	-0.191*	-0.325**	-0.366**	-0.221*	-0.407**	-0.259**	-0.309**	-0.377**
	〈模索〉				-0.270**	-0.234*	-0.270**	-0.267**		-0.181*			-0.209*
	〈安直〉		-0.317**	-0.272**	-0.477**	-0.187*	-0.366**	-0.393**	-0.344**	-0.392**	-0.307**	-0.380**	-0.447**
	〈決定〉		0.417**	0.326**	0.595**	0.311**	0.527**	0.526**	0.331**	0.510**	0.260**	0.473**	0.503**

\*\*： $p<0.01$ , \*： $p<0.05$

Table 7 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数（中国： $n=45$ ）

測定尺度	自意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的自意識	私的自意識		自己斉一性・連続性	対自的同一性	対他的同一性	心理社会的同一性	同一性合計	前向き	自信	達成感	失望感のなさ	幸福感合計
人生〈関心性〉	0.317*	0.308*			0.419**	0.392**	0.496**	0.495**		0.389**			
キャリア〈自律性〉			0.425**	0.512**	0.393**		0.393**	0.516**		0.596**			0.438**
成熟〈計画性〉		0.324*	0.319*	0.407**	0.590**	0.365*	0.542**	0.600**		0.514**	0.363*		0.412**
職業未決定	〈未熟〉			-0.416**			-0.364*	-0.376*		-0.304*			
	〈混乱〉			-0.357*									
	〈猶予〉			-0.329*			-0.355*	-0.324*					
	〈模索〉												
	〈安直〉				-0.327*		-0.389**	-0.302*					
	〈決定〉		0.302*		0.527**		0.508**	0.479**	0.305*				0.296*

\*\*： $p<0.01$ , \*： $p<0.05$



との「きょうだい=いない」の相関係数をTable 9に示す。

『成人キャリア成熟〈関心性〉』においては、『自意識〈私的自意識〉』、『自尊感情』、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉』を除く他のすべての下位尺度と合計尺度、『主観的幸福感〈失望感のなさ〉』を除く他のすべての下位尺度と合計尺度で正の有意な相関が見られた。『成人キャリア成熟〈自律性〉、〈計画性〉』のすべての下位尺度においては、『自意識』を除く他のほぼすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた（〈計画性〉と〈自己斉一性・連続性〉を除く）。

『職業未決定〈未熟〉、〈混乱〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のほぼすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた（〈未熟〉と〈対他格的〉、〈達成感〉；〈混乱〉と〈対

他格的〉、〈前向き〉、〈達成感〉を除く）。『職業未決定〈猶予〉』においては、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈対自的〉、〈同一性合計〉』、『主観的幸福感〈失望感のなさ〉、〈幸福感合計〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈安直〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈対自的〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』、『主観的幸福感〈失望感のなさ〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈決定〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性〈対自的〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』、『主観的幸福感〈前向き〉、〈自信〉、〈失望感のなさ〉、〈幸福感合計〉』で正の有意な相関が見られた。

【一人暮らし=はい】職業決定尺度と自己意識尺度との「一人暮らし=はい」の相関係数をTable10に示す。

Table 8 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数（きょうだい=いる： $n=125$ ）

測定尺度	自意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的自意識	私的自意識		自己斉一性・連続性	対自的同一性	対他格的同一性	心理社会的同一性	同一性合計	前向き	自信	達成感	失望感のなさ	幸福感合計
人生〈関心性〉	0.270**	0.542**	0.364**	0.185*	0.402**	0.214*	0.486**	0.381**	0.286**	0.489**	0.395**	0.215*	0.446**
キャリア〈自律性〉		0.387**	0.505**	0.507**	0.605**	0.394**	0.641**	0.644**	0.460**	0.630**	0.421**	0.440**	0.637**
成熟〈計画性〉		0.327**	0.485**	0.375**	0.718**	0.408**	0.661**	0.645**	0.386**	0.677**	0.468**	0.433**	0.642**
職業未決定〈未熟〉			-0.460**	-0.505**	-0.565**	-0.323**	-0.516**	-0.578**	-0.370**	-0.512**	-0.338**	-0.459**	-0.554**
職業未決定〈混乱〉	0.192*		-0.448**	-0.503**	-0.501**	-0.342**	-0.480**	-0.552**	-0.341**	-0.448**	-0.313**	-0.471**	-0.520**
職業未決定〈猶予〉	-0.178*			-0.321**	-0.350**		-0.292**	-0.322**	-0.197*	-0.322**	-0.274**		-0.307**
職業未決定〈模索〉				-0.215*	-0.246**	-0.182*	-0.234**	-0.264**		-0.182*		-0.184*	-0.232**
職業未決定〈安直〉				-0.297**	-0.350**		-0.289**	-0.315**	-0.277**	-0.268**	-0.291**	-0.201*	-0.333**
職業未決定〈決定〉			0.431**	0.342**	0.561**	0.333**	0.555**	0.535**	0.299**	0.486**	0.225*	0.410**	0.472**

\*\*： $p<0.01$ , \*： $p<0.05$

Table 9 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数（きょうだい=いない： $n=40$ ）

測定尺度	自意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的自意識	私的自意識		自己斉一性・連続性	対自的同一性	対他格的同一性	心理社会的同一性	同一性合計	前向き	自信	達成感	失望感のなさ	幸福感合計
人生〈関心性〉		0.348*	0.367*		0.604**	0.432**	0.375*	0.513**	0.457**	0.530**	0.491**		0.527**
キャリア〈自律性〉			0.589**	0.545**	0.687**	0.373*	0.538**	0.693**	0.557**	0.695**	0.503**	0.532**	0.732**
成熟〈計画性〉			0.478**		0.791**	0.327*	0.533**	0.613**	0.480**	0.613**	0.417**	0.320*	0.587**
職業未決定〈未熟〉			-0.508**	-0.493**	-0.601**		-0.545**	-0.624**	-0.349*	-0.486**		-0.451**	-0.505**
職業未決定〈混乱〉			-0.460**	-0.466**	-0.500**		-0.479**	-0.564**		-0.468**		-0.493**	-0.468**
職業未決定〈猶予〉				-0.353*	-0.374*			-0.405**				-0.364*	-0.377*
職業未決定〈模索〉													
職業未決定〈安直〉			-0.415**	-0.370*	-0.481**		-0.422**	-0.453**				-0.356*	
職業未決定〈決定〉			0.326*		0.716**		0.448**	0.459**	0.334*	0.404**		0.353*	0.428**

\*\*： $p<0.01$ , \*： $p<0.05$

Table10 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数（一人暮らし=はい： $n=65$ ）

測定尺度	自意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的自意識	私的自意識		自己斉一性・連続性	対自的同一性	対他格的同一性	心理社会的同一性	同一性合計	前向き	自信	達成感	失望感のなさ	幸福感合計
人生〈関心性〉	0.419**	0.447**	0.273*		0.548**	0.312*	0.457**	0.460**		0.518**	0.453**		0.444**
キャリア〈自律性〉	0.311*	0.307*	0.490**	0.376**	0.566**	0.288*	0.471**	0.532**	0.369**	0.712**	0.533**	0.291*	0.672**
成熟〈計画性〉			0.354**	0.291*	0.703**	0.428**	0.528**	0.599**		0.641**	0.414**		0.516**
職業未決定〈未熟〉			-0.356**	-0.486**	-0.523**		-0.473**	-0.548**		-0.432**	-0.304*	-0.372**	-0.462**
職業未決定〈混乱〉			-0.350**	-0.450**	-0.428**		-0.346**	-0.457**		-0.376**		-0.416**	-0.414**
職業未決定〈猶予〉	-0.249*			-0.410**	-0.423**		-0.417**	-0.442**		-0.314*	-0.317**		-0.377**
職業未決定〈模索〉				-0.348**			-0.267*	-0.294*					
職業未決定〈安直〉				-0.313*	-0.448**		-0.369**	-0.364**					-0.258*
職業未決定〈決定〉			0.373**	0.456**	0.579**	0.447**	0.535**	0.630**		0.373**	0.261*	0.330**	0.402**

\*\*： $p<0.01$ , \*： $p<0.05$



『成人キャリア成熟〈関心性〉』においては、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉』、『主観的幸福感〈前向き〉、〈失望感のなさ〉』を除く他のすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた。『成人キャリア成熟〈自律性〉』においては、自己意識尺度のすべての下位尺度および合計尺度で有意な相関が見られた。『成人キャリア成熟〈計画性〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性』のすべての下位尺度および合計尺度、『主観的幸福感〈自信〉、〈達成感〉、〈幸福感合計〉』で正の有意な相関が見られた。

『職業未決定〈未熟〉、〈混乱〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のほぼすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた（〈未熟〉と〈対他的〉、〈前向き〉；〈混乱〉と〈対他的〉、〈前向き〉、〈達成感〉を除く）。『職業未決定〈猶予〉』においては、『自意識〈公的自意識〉』、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈対自的同一性〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』、『主観的幸福感〈自信〉、〈達成感〉、〈幸福感合計〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈模索〉』においては、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈安直〉』においては、『自我同一性〈自己斉一性・連続性〉、〈対自的〉、〈心理社会的〉、〈同一性合計〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈決定〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感〈前向き〉』を除く他のすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた。

【一人暮らし=いいえ】職業決定尺度と自己意識尺度との「一人暮らし=いいえ」の相関係数をTable11に示す。

『成人キャリア成熟』においては、『自意識〈私的自意識〉』、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた。『職業未決定〈未熟〉、〈混乱〉』においては、『自意識〈公的自意識〉』で正の有意な相関、また『職業未決定〈未熟〉、〈混乱〉、〈猶予〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のほぼすべての下位尺度および合計尺度で負の有意な相関が見られた（〈猶予〉と〈対他的〉を除く）。『職業未決定

〈模索〉』においては、『自我同一性〈対自的〉、〈対他的〉、〈同一性合計〉』、『主観的幸福感〈前向き〉、〈自信〉、〈幸福感合計〉』で負の有意な相関が見られた。『職業未決定〈安直〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のほぼすべての下位尺度で負の有意な相関が見られた（〈安直〉と〈対他的〉を除く）。『職業未決定〈決定〉』においては、『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』のすべての下位尺度および合計尺度で正の有意な相関が見られた。

## 考察

**平均値の差について：**性別について、『主観的幸福感〈失望感のなさ〉』では、女よりも男の方が高い傾向が見られたため、男は女より将来に対する不安をやや高く感じているのではないかと考えられる。『職業未決定〈未熟〉、〈決定〉』では、男より女の方が高い傾向が認められた。つまり、職業決定に直面する際、女の方が職業意識の未熟や職業決定の不能といった傾向が強いといえる。

国籍について、『自意識〈公的自意識〉』では、日本人大学生は中国人留学生より公的自意識が高かった。つまり、日本人大学生のほうが他者から見える自分の外見や行動により意識すると考えられる。『自尊感情』では、中国人留学生は日本人大学生よりも高い傾向が見られたことから、中国人留学生のほうがより自分のことを評価し、尊敬していると考えられる。『職業未決定〈未熟〉、〈猶予〉、〈模索〉』では中国人留学生のほうがより強い傾向が見られた。つまり、中国人留学生のほうが、職業の決定に直面する際に、職業意識が未熟なため、将来の見通しがなく、職業選択に取り組めないと考えられる。また、職業決定を猶予して当面のところは職業について考えたくない側面と、職業決定に向かって積極的に模索する側面があるとも考えられる。

きょうだいの有無について、『自尊感情』、『自我同一性〈心理〉』、『職業未決定〈模索〉』の3項目すべてできょうだいがいない人は、きょうだいがいる人より高い傾向が見られた。きょうだいがいない人のほうが、自尊感情が高く、自分らしさを求める傾向があると考えられる。

Table11 職業決定尺度と自己意識尺度との有意な相関係数（一人暮らし=いいえ： $n=100$ ）

測定尺度	自意識		自尊感情	自我同一性					主観的幸福感				
	公的自意識	私的自意識		自己斉一性・連続性	対自的同一性	対他的同一性	心理社会的同一性	同一性合計	前向き	自信	達成感	失望感のなさ	幸福感合計
人生〈関心性〉		0.535**	0.432**	0.206*	0.396**	0.233*	0.475**	0.384**	0.380**	0.483**	0.388**	0.288**	0.476**
キャリア〈自律性〉		0.389**	0.523**	0.590**	0.637**	0.430**	0.672**	0.697**	0.547**	0.618**	0.398**	0.534**	0.661**
成熟〈計画性〉		0.434**	0.524**	0.415**	0.736**	0.370**	0.676**	0.653**	0.538**	0.653**	0.469**	0.490**	0.672**
職業未決定	〈未熟〉	0.236*	-0.541**	-0.517**	-0.607**	-0.360**	-0.552**	-0.611**	-0.439**	-0.549**	-0.330**	-0.505**	-0.577**
	〈混乱〉	0.294**	-0.519**	-0.523**	-0.546**	-0.404**	-0.562**	-0.609**	-0.397**	-0.489**	-0.303**	-0.506**	-0.539**
	〈猶予〉		-0.236*	-0.268**	-0.373**		-0.246*	-0.304**	-0.240*	-0.344**	-0.280**	-0.212*	-0.333**
	〈模索〉				-0.254*	-0.226*		-0.214*	-0.238*	-0.215*			-0.232*
	〈安直〉		-0.227*	-0.308**	-0.356**		-0.283**	-0.334**	-0.315**	-0.330**	-0.294**	-0.300**	-0.387**
	〈決定〉		0.402**	0.224*	0.582**	0.220*	0.508**	0.454**	0.377**	0.506**	0.206*	0.416**	0.479**

\*\*： $p<0.01$ ，\*： $p<0.05$

一人暮らしかどうかについて、『自尊感情』、『自我同一性<対自的>、<心理社会的>』、『成人キャリア成熟<計画性>』、『職業未決定<猶予>』の5項目には有意な差が見られ、いずれも一人暮らしをしていない人よりも一人暮らしをしている人のほうが自尊感情や計画性が高い一方、職業決定について当面のところは考えたくないという結果から、一人暮らしをしている人は自分らしさを求め、気ままに生きようとするため、職業についてあまり考えたくないのではないかと考えられる。

**相関係数について：**全体の相関係数を見てみると、『自意識<私的自意識>』は『成人キャリア成熟』の各下位尺度との間で相関が見られたことから、大学生は生き方を考える時、外からの評価や、自分に対する見方をあまり気にせず、自分の内面の意欲や感じ方を重視していると考えられる。一方、『自意識<私的自意識>』は『成人キャリア成熟』の各下位尺度との間で相関が見られたが、『職業未決定』との間で相関が見られなかったことから、大学生は自分の中で、まだ職業の決定状態は人生の生き方と深く結び付けていないと考えられる。また、『成人キャリア成熟』と『自尊感情』、『自我同一性』、『主観的幸福感』の間で正の相関が見られたため、自尊感情が高く、自我が統一され、幸福感が高い人は自分の人生やこれからの生き方に対して、関心を持ち、よりよい方向を迎えるため、自立し積極的に計画すると考えられる。そして、『職業未決定<未熟>、<混乱>、<猶予>、<模索>、<安直>』と『自我同一性』や『主観的幸福感』の間で負の相関がみられたが、『職業未決定<決定>』と『自我同一性』や『主観的幸福感』の間で正の相関がみられたことから、自我同一性や幸福度の高い人はより早く順調に職業が決まると考えられる。

男と女の相関係数を比べてみると、男において『成人キャリア成熟<関心性>』と『自意識<公的自意識>』の間で弱い正の相関が見られたことに対し、女にはそういう傾向がなかったことから、人生の生き方を考える時、女より男のほうが、少し外界の目線を気にすると考えられる。

国籍の相関係数を比べてみると、日本人大学生において『職業未決定』と『主観的幸福感<幸福感合計>』の間で相関が見られたが、中国人留学生においては相関が見られなかったことから、日本人大学生は職業の決定に直面する時、幸福感の影響を受けるが、中国人留学生は幸福感の影響を受けないと考えられる。

きょうだいのいる人といない人の相関係数を比べてみると、きょうだいのいる人において『成人キャリア成熟』の各下位尺度と『自意識<私的自意識>』の間で正の相関、『成人キャリア成熟<関心性>』と『自意識<公的自意識>』の間でも正の相関が見られたが、きょうだいのいない人において、まったく相関が見られなかったことから、きょうだいのいる人はこれからの生き方について考え、しかもその考えは周りの環境の影響を受けると考えられる。それに対して、きょうだいのいない人は、モデルやライバルがいないため気まま

に生きていて、生き方についてもあまり深く考えていないと考えられる。

一人暮らしをしている人と一人暮らしをしていない人の相関係数を比べてみると、一人暮らしをしている人において『職業未決定<未熟>、<混乱>』と『自意識<公的自意識>』の間で相関がなかったのに対し、一人暮らしをしていない人において相関が見られたことから、ほかの人と一緒に暮らす人はその人たちの目線や評価を気にするので、<公的自意識>が高ければ、高いほど、就職を考える時、焦りや混乱に落ちやすいという側面と、一緒に暮らす人に頼りすぎて、職業意識が未熟で、将来の見通しが無いという側面もあると考えられる。

#### 引用文献

- Diener, E., Suh, E. M., Lucas, R. E., & Smith, H. L. 1999. Subjective well-being: Three decades of progress. *Psychological Bulletin*, **125**, 276-302.
- Erikson, E.H. 1980. *Identity and the life cycle*. Norton.
- Fenigstein, A., Scheier, M. F., & Buss, A. H. 1975. Public and private self-consciousness: Assessment and theory. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **43**, 522-527.
- 石井留美 1997. 主観的幸福感研究の動向. コミュニティ心理学研究, **1**, 94-107.
- 伊藤裕子・相良順子・池田政子・川浦康至 2003. 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討. 心理学研究, **74**, 276-281.
- King, S. 1989. Sex differences in a causal model of career maturity. *Journal of Counseling & Development*, **68**, 208-215.
- Larson, R. 1978. Thirty years of research on the subjective well-being of older Americans. *Journal of Gerontology*, **33**, 109-125.
- 松浦素子 2006. 大学卒業後のキャリア選択と主観的幸福感の関連. 日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集, 128-129.
- 内閣府 2013. 若年無業者, フリーター, ひきこもり (子ども・若者白書).
- Rosenberg, M. 1965. *Society and the adolescent self-image*. Princeton University Press.
- 坂柳恒夫 1991. 進路成熟の測定と研究課題. 愛知教育大学教科教育センター研究報告第15号, 269-280.
- 坂柳恒夫 1999. 成人キャリア成熟度尺度 (ACMS) の信頼性と妥当性の検討. 愛知教育大学研究報告, **48**, 115-122.
- 下山晴彦 1986. 大学生の職業未決定の研究. 教育心理学研究, **34**, 20-30.
- 菅原健介 1984. 自意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み. 心理学研究, **55**, 184-188.
- Super, D. E. 1984. *Career & life development*. In D. Brown & L. Books (Eds) *Career Choice and Development*. Jossey-Bass.
- 谷 冬彦 1997a. 自我同一性 (第V段階) 尺度の作成(1)-下位概念設定および項目設定選定に関する予備的研究. 日本心理学会第61回大会発表論文集, 287.
- 谷 冬彦 1997b. 自我同一性 (第V段階) 尺度の作成(2)-因子分

析および信頼性の検討. 日本教育心理学会第39回総会発表論文集, 207.

谷 冬彦 1998. 自我同一性(第V段階)尺度の作成(3)－妥当性の検討. 日本心理学会第62回大会発表論文集, 263.

谷 冬彦 2001. 青年期における同一性の感覚の構造－多次元自我同一性尺度(MEIS)の作成. 教育心理学研究, **49**, 265-273.

山本真理子・松井 豊・山成由紀子 1982. 認知された自己の諸側面の構造. 教育心理学研究, **30**, 64-68.